

令和4年度

病害虫発生予察情報

第7号

注意報第2号

北海道病害虫防除所 令和4年(2022年)6月20日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

たまねぎでネギアザミウマ多発、高温経過で急増のおそれ！ ねぎ、あぶらな科野菜、アスパラガスでも注意！

長沼町及び訓子府町のたまねぎ予察ほ場において、ネギアザミウマの成虫及び幼虫の初発が平年よりやや早く確認されています。6月3半旬には成虫寄生密度及び寄生株率も高まっています。6月16日発表の1ヶ月予報によると、降水量はやや多いものの気温は高い見込みで、特に6月24日までの1週間は気温が高い確率60%と予報されています。すでに寄生株率が高く、幼虫密度はまだ低いものの急激に寄生密度が上昇する危険性が高いです。

たまねぎでの薬剤防除開始の目安は、ほ場を観察してほぼ全ての株にわずかな食害が認められた状態ですが、すでに防除が必要な食害状況に達しているほ場も多くなっていると考えられます。そのようなほ場では直ちに防除を開始しましょう。

ねぎでは通常7月中下旬以降に密度が上昇して8～9月には高密度になりますが、高温経過で密度上昇が急激に進み6月下旬から7月上旬に防除が必要な密度に達することもあります。ほ場を観察し防除開始が遅れないようにしましょう。

キャベツ、はくさい、ブロッコリーなどのあぶらな科野菜及びアスパラガスも、ねぎと同様に密度が高まりやすい作物です。あぶらな科野菜では定植直後から生育前半に成虫の飛び込みが多いと著しい被害が発生します。また、キャベツでは外観からは確認しにくい結球部被害が発生することがあり、多発条件では本種を対象とした薬剤防除が必要です。アスパラガスでは、若茎被害が発生する立茎栽培で特に注意が必要です。

道内において、上記作物以外にもレタス、ばれいしょ、ほうれんそうでも被害事例が確認されています。レタスではキャベツと同様に結球内被害が発生することがあり、外観からは被害が確認できないので注意が必要です。

また、近年道内の広い範囲においてピレスロイド剤に対する抵抗性のネギアザミウマが確認されているので、薬剤選択の際は注意しましょう。

1. 発生地域 全道
2. 発生期 既発（やや早）
3. 予想される発生量 多

4. 注意報発令の根拠

- (1) 無防除のたまねぎ予察ほにおける本種の成虫の初発期は、長沼町で平年よりやや早く、訓子府町では平年より早かった。幼虫の初発期は、いずれの地点でも平年よりやや早かった。
- (2) 予察ほの6月3半旬調査において、成虫寄生虫数は平年より多く、食害程度及び寄生株率も平年より高く、いずれも平年の6月下旬から7月中旬の水準に達している（表）。
- (3) 6月16日付け札幌管区気象台の1か月予報（付記）によると、向こう1ヶ月の気象は、降水量はやや多いものの気温は高いと予報されていることから、発生量は平年より多い状態が続くものと予想される。特に6月24日までの1週間は気温が高いと予報されており、寄生密度が急激に上昇するおそれがある。

5. 防除対策

- (1) 近年道内の広い範囲においてピレスロイド剤に対する抵抗性のネギアザミウマが確認されているので、薬剤選択の際は注意する。いずれの作物においても同一系統薬剤を連用しない。
- (2) たまねぎやアスパラガスなど本種の発生が多い作物に近接したほ場では、飛び込みが多く被害が発生しやすいので注意する。特に、たまねぎの倒伏期から収穫期にかけては、密度上昇が急激に進む危険性が高いので、ほ場を観察して早めの薬剤散布を実施する。
- (3) <たまねぎ>
 - ① ほぼすべての株にわずかな食害が認められたら、直ちに薬剤防除を開始する。
 - ② 効果の高い薬剤（プロチオホス剤、スピネトラム剤（2,500倍）、フロメトキン剤、フルキサメタミド剤）を10日間隔で散布する。
 - ③ 中晩生品種では7月20日以降の散布を最終散布とする。
- (4) <ねぎ>
 - ① 収穫30日前までは、上位3葉の株あたり寄生頭数が10頭を上回る場合は薬剤防除をおこなう。
 - ② 収穫30日前から、効果の高い薬剤（スピネトラム剤、フロメトキン剤、トルフェンピラド剤、プロチオホス剤、フルキサメタミド剤）を7日間隔で散布する。
 - ③ 散布間隔が10日程度に開くと防除効果が劣る場合があるため、降雨などで予定日に散布できない危険性がある場合は、前回散布5日後程度に臨機防除剤（ピリダリル剤、アバメクチン剤、ニテンピラム剤）を散布する。
 - ④ 臨機防除剤を散布した場合は、その5日後に②に上げた効果の高い薬剤を散布する。
- (5) <キャベツ>
 - ① クロラントラニリプロール・チアメトキサム剤、シアントラニリプロール剤、イミダクロプリド・スピノサド剤のセル苗灌注をおこなう。
 - ② 定植3週間後から効果の高い薬剤（フィプロニル剤、スピネトラム剤、フロメトキン剤、トルフェンピラド剤、フルキサメタミド剤）を7日間隔で散布する。
 - ③ 薬剤散布は収穫7日前、またはネギアザミウマのほ場への飛び込みが認められなくなるまで継続する。
 - ④ 防除にあたっては、他害虫の発生も考慮して、効率的な防除をおこなう。
- (6) <アスパラガス>
 - ① 立茎栽培では、若茎被害を防止するため効果の高い薬剤（アセタミプリド剤、クロチアニジン剤、スピノサド剤、ジノテフラン剤、チオシクラム剤、フロメトキン剤）を7日間隔で2回散布する。散布前に擬葉のトリミングをおこなうと防除効果が高まる。
 - ② 施設栽培では、ハウス被覆資材に近紫外線除去フィルムを用いると侵入抑制効果が高い。

表. たまねぎ予察ほでのネギアザミウマ発生状況

月半月	長沼町								訓子府町							
	寄生虫数				食害程度		寄生株率 (%)		寄生虫数				食害程度		寄生株率 (%)	
	成虫		幼虫						成虫		幼虫					
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5.V	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	5	0.0	0	0.0	4	0.0	20	0.0
VI	2.8	0.8	0	0.0	0.5	0.3	10	2.7	6	3.5	0	0.0	16	0.4	20	6.0
6.I	10.5	2.5	0	0.1	4	1.4	34	8.1	22	14.5	0	0.0	23	3.0	64	14.4
II	11.5	5.6	0.5	1.7	12	4.0	32	14.8	24	19.1	0	4.2	27	5.2	48	20.8
III	28	13.0	6	11.2	28	8.1	76	25.2	140	30.9	9	24.2	37	10.2	100	34.0
IV		14.3		45.9		13.8		32.5		43.4		160.3		25.1		61.2
V		21.7		180.4		19.2		39.6		38.0		329.5		34.9		78.4
VI		40.7		238.6		24.3		48.8		51.6		635.0		43.6		88.4
7.I		70.1		196.3		30.9		57.8		66.3		1060.6		56.0		95.2
II		122.6		364.3		40.4		66.8		130.4		1205.1		70.1		98.4
III		126.3		449.8		48.7		73.6		146.9		1512.6		82.9		100.0
IV		135.9		1440.4		57.7		85.4		134.8		1635.7		91.7		100.0
V		119.5		471.4		64.0		90.2		99.1		1432.9		95.3		99.1
VI		39.7		115.9		40.3		74.4		69.1		1565.8		97.8		100.0

注) 25株調査、寄生虫数は抽出3葉あたり、食害程度は全葉。

付記

北海道地方 1か月予報
(6月18日から7月17日までの天候見通し)

令和4年6月16日
札幌管区气象台発表

<予想される向こう1か月の気候>

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。

気圧の谷や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

週別の天候は、1週目は、低気圧や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。2週目は、気圧の谷や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。3～4週目は、天気は数日の周期で変わるでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

【気温】 北海道地方	10	30	60
【降水量】 北海道地方	20	40	40
【日照時間】 北海道地方	40	40	20

■低い(少ない) □平年並 ■高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>

1週目 北海道地方	10	30	60
2週目 北海道地方	20	40	40
3～4週目 北海道地方	20	40	40

■低い □平年並 ■高い